

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 千葉県 】

1 実践テーマ	【 II IV 】
2 実施対象者	学校名 松戸市立大橋小学校 対象学年 4年生 人数 52人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	・大橋小学校の二十世紀梨を大切に育てる伝統を引きつぐと共に、お世話になっている地域の農家さんや鳥取の方などに感謝の気持ちを持って、引き継ぎ式でおもてなしをする。 ・オリンピック・パラリンピックを通して、松戸の梨が外国との交流に役立っていることを知り、世界の文化を理解しようとする態度を育てる。
5 取組内容	【梨を育てる活動～引き継ぎ式】 3年生の3学期に引きついだ大橋小学校の二十世紀梨を一年間かけて世話をした。 4月に花粉付け、そこから毎月摘果、小袋かけ、大袋かけなどの作業を、農家さんにお手伝いしてもらいながら行ってきた。9月の収穫では400個を超える梨を収穫することが出来、収穫祭では地域の農家さんと共に、収穫の喜びを味わうことが出来た。12月には、自分たちが育ててきた梨を3年生に引きつぐための「引き継ぎ式」に向けての取り組みを行った。 二十世紀梨は、この大橋地区で最初に発見され、全国に広まったこと、特に鳥取県とのつながりに着目し、松戸と鳥取とのつながりについて調べるグループもいた。また、一年間梨を育ててきて分かったこと、3年生に引きつぎたいと思うことを、自分たちの経験を入れて発表するグループもいた。また、今年度は、松戸市の梨がドミニカ共和国へ送られ、梨栽培の技術や知識を共有する等応援していくことを、ゲストティーチャーを招いて教えていただいた。そのため、ドミニカ共和国とのつながりについて調べ発表するなどのグループも見られた。



【ドミニカ共和国とのつながりについて】

2020年にオリンピックパラリンピックが日本で開催されることを伝え、世界の国について知っていることを話し合った。その中で梨も外国で栽培されているか知りたいということになり、梨を育てる活動でお世話になっている梨農家さんの一人が、ドミニカ共和国に梨の木を送る活動をしていることを知り、その活動について教えていただく授業を行った。



梨の話ばかりではなく、ドミニカ共和国という国についての話や、人柄、食文化など様々な視点からお話を伺った。子ども達は、松戸市とドミニカ共和国との交流に、松戸市の梨が大きく関わっていたことに興味を持ち、その後の引き継ぎ式への意欲付けとなった。また、今後、オリンピック・パラリンピックのキャンプ地として、松戸市へ訪れるドミニカ共和国の方々を理解するための、良い機会となった。

6 主な成果

【梨を育てる活動～引き継ぎ式】

- ・梨を育てる活動は、例年伝統的に4年生が行っているため、児童は意欲的に取り組んでいた。また、引き継ぎ式では自分の経験を生かした発表内容になるよう、引きつぐ内容にこだわりを持って取り組ませることができた。

【ドミニカ共和国とのつながりについて】

- ・自分たちの育てた梨と外国とのつながりがあることに、関心が高まった。また、いつも教えに来て下さっている農家の方がゲストティーチャーだったことで、より身近に外国とのつながりを捉えることが出来た。

7 実践において工夫した点
(事業の特色)

- ・社会科の学習でも出てくる、地域の発展に尽くした人(今回は松戸覚之助)を、自分たちの活動を通して調べたことで、地域の伝統に目を向け、引きついでいくことの大切さを実感させる。
- ・自分たちが関わっている梨を通して、外国とのつながりが生まれていることを知り、自分たちの梨を大切に育てることを考えさせる。

8 主な課題等

- ・梨の仕事では、地域の農家さん方や、鳥取県の方との日程調整に苦労した。
- ・実際にドミニカ共和国の方にゲストとしてお越しいただきたかったが、都合がつかず叶わなかった。

9 来年度以降の実施予定

- ・例年同様、4年生が梨を育てる活動から引き継ぎ式までは行っていく。

